



# 「60代6000人の声」アンケート調査結果、第2弾

## ～生活に関する満足度はどこからくるのか

合同会社フィンウェル研究所

代表 野尻哲史

2022年3月3日

## アンケート調査概要とレポートの特徴

2019年、2021年に続いて2022年も60代をターゲットとしたアンケート調査を実施。全2回の地方都市移住にフォーカスした調査を踏まえて、今回は3大都市圏、100万人以上の都市、30万人以上の都市の3つの区分からそれぞれ2000人強の回答を得て、移住のみならず、現在の居住地での生活の満足度、住んでいる都市の評価などを聞いた。

| 2022年60代6000人アンケート調査概要       |   |                           |
|------------------------------|---|---------------------------|
| 調査実施時期                       | 2022年2月   |                           |
| 調査対象                         | 60-69歳6486人（男性4804人、女性1682人）                        |                           |
| 居住地                          | 3大都市圏2131人、100万人以上都市2175人、30万人以上都市2180人             |                           |
| 移住                           | 過去10年以内に移住440人（3大都市から67人、それ以外の都市から373人）             |                           |
| 世帯資産                         | 平均2695.8万円、中央値1001-1500万円                           |                           |
| 生活全般に対する満足度（満足5点-不満足1点）      | 平均3.17点（健康状態3.30点、仕事・やりがい3.20点、人間関係3.51点、資産水準2.80点） |                           |
| 過去のアンケート調査概要                 |   |                           |
| 調査実施時期                       | 2019年11月  | 2021年3月                   |
| 調査対象                         | 60-69歳2128人（男1627人、女501人）                           | 60-69歳2305人（男1646人、女659人） |
| 以前、3大都市に住んでいて現在、地方都市に移住した    | 306人（男238人、女68人）                                    | 269人（男195人、女74人）          |
| 現在、3大都市に住んでいて地方都市移住を検討中      | 536人（男440人、女96人）                                    | 179人（男149人、女30人）          |
| 現在、3大都市に住んでいて地方都市移住を検討したが諦めた | 586人（男456人、女130人）                                   | 222人（男177人、女45人）          |
| 現在、3大都市に住んでいて地方都市移住を考えたことがない | 700人（男493人、女207人）                                   | 1635人（男1125人、女510）        |

## アンケート結果のまとめ

- Gallupのレポート\*によると、Well-beingの5要素として、Physical、Career、Social、Community、Financialを挙げている。60代6000人の調査では、生活全般の満足度と、それを構成する要素として健康状態、仕事・やりがい、人間関係、資産水準の各満足度を聞いた。
- 生活全般の満足度は、その54%が健康状態、仕事・やりがい、人間関係、資産水準の各満足度で説明できた。十分とは言えないが、この4つが大きな影響力を持っていることがわかる  
**生活全般 = 0.165\*健康状態 + 0.1952\*やりがい + 0.1807\*人間関係 + 0.4669\*資産水準 + 0.0563**
- なかでも影響力の大きさでは資産水準が群を抜いている。資産水準はその金額に比例して満足度が上がる傾向が強く、現役時代の資産形成が60代になって生活全般の満足度につながる事が推測される。
- 居住する都市の規模によって生活全般の満足度が変わると想定していたが、結果はほとんど変わらなかった。4つの要素についてもほとんど変わらなかった。移住の障壁が少ないことを示しているのかもしれない。
- 家族構成では、単身よりも夫婦世帯の方が生活全般の満足度が高いことが窺えた。ただ、その差異は、人間関係だけではなく、資産水準でももたらされている。

\* Gallup, The Five Essential Elements of Well-Being, Tom That and Jim Harter, 2010, May 4

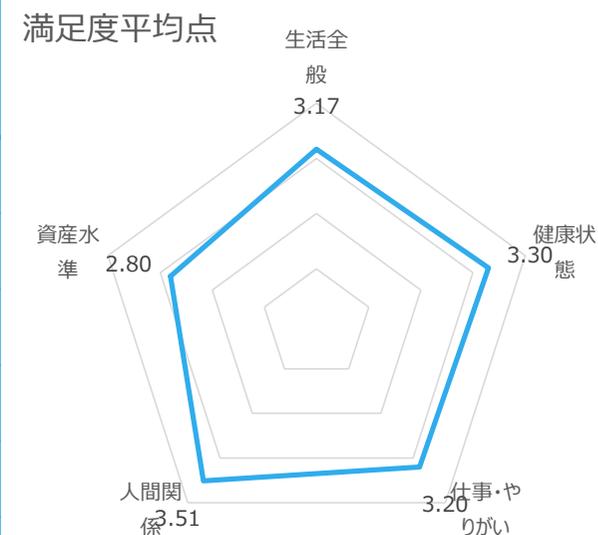
## 生活全般の満足度－資産水準の満足度が低い

- 生活全般、健康状態、仕事・やりがい、人間関係、資産水準の満足度を聞くと、人間関係では平均値は3.5点と高く、資産水準は2.8点と最も低い。生活全般、健康状態、仕事・やりがいはそれぞれ3.2点前後。
- 資産水準では2点、1点の比率が相対的に高く、この改善が60代の生活全般の改善につながりそう。

満足度調査（60代 6486人）－第1弾レポートの再掲

（単位：％、点）

| 満足度水準          | 配点 | 生活全般  | 健康状態  | 仕事・やりがい | 人間関係  | 資産水準  |
|----------------|----|-------|-------|---------|-------|-------|
| 満足できる          | 5  | 9.0%  | 10.6% | 8.2%    | 12.3% | 6.0%  |
| どちらかといえば満足できる  | 4  | 36.6% | 39.2% | 28.0%   | 42.9% | 21.9% |
| どちらともいえない      | 3  | 27.4% | 26.3% | 46.1%   | 32.4% | 34.0% |
| どちらかといえば満足できない | 2  | 16.0% | 17.0% | 10.6%   | 8.5%  | 22.5% |
| 満足できない         | 1  | 11.0% | 6.9%  | 7.1%    | 3.9%  | 15.6% |
| 平均点            |    | 3.167 | 3.295 | 3.196   | 3.512 | 2.801 |



（注）平均点は、5段階評価で、「満足できる」（5点）、「どちらかといえば満足できる」（4点）、「どちらともいえない」（3点）、「どちらかといえば満足できない」（2点）、「満足できない」（1点）の平均。（出所）「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

## 資産水準に満足度が高まれば、生活全般の満足度が上がる

- 生活全般の満足度は重回帰分析の結果、資産水準の影響を強く受けていることが分かった。健康状態、仕事・やりがい、人間関係は市況はあるがどれもそれほど強くはなかった。

| 回帰統計    |        |         |         |           |         |        |
|---------|--------|---------|---------|-----------|---------|--------|
| 重相関 R   | 0.7336 |         |         |           |         |        |
| 重決定 R2  | 0.5382 |         |         |           |         |        |
| 補正 R2   | 0.5379 |         |         |           |         |        |
| 標準誤差    | 0.7746 |         |         |           |         |        |
| 観測数     | 6485   |         |         |           |         |        |
| 分散分析表   |        |         |         |           |         |        |
|         | 自由度    | 変動      | 分散      | 観測された分散比  | 有意 F    |        |
| 回帰      | 4      | 4530.43 | 1132.61 | 1887.8208 | 0       |        |
| 残差      | 6480   | 3887.71 | 0.60    |           |         |        |
| 合計      | 6484   | 8418.13 |         |           |         |        |
|         | 係数     | 標準誤差    | t       | P-値       | 下限 95%  | 上限 95% |
| 切片      | 0.0563 | 0.0412  | 1.3655  | 0.1721    | -0.0245 | 0.1371 |
| 健康状態    | 0.1653 | 0.0105  | 15.7005 | 0.0000    | 0.1447  | 0.1860 |
| やりがい・仕事 | 0.1952 | 0.0126  | 15.5161 | 0.0000    | 0.1705  | 0.2198 |
| 人間関係    | 0.1807 | 0.0131  | 13.7476 | 0.0000    | 0.1549  | 0.2065 |
| 資産水準    | 0.4669 | 0.0098  | 47.6562 | 0.0000    | 0.4477  | 0.4861 |

生活全般 =  
 0.165\*健康状態  
 +0.1952\*やりがい  
 +0.1807\*人間関係  
 +0.4669\*資産水準  
 +0.0563

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

All rights reserved ©FinWell Research LLC, 2022

## 就労状況、家族構成、資産運用も生活全般の満足度に影響

- 健康状態、やりがい・仕事、人間関係、資産水準それぞれの満足度以外には、働いていない、資産運用している、夫婦で生活しているかが、生活全般も満足度に影響している。特に就労状況の係数がマイナス(働いていない方が満足度が高い)というのは新しい気づき。

| 回帰統計     |         |        |         |        |         |         |   |
|----------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|---|
| 重相関 R    | 0.7415  |        |         |        |         |         |   |
| 重決定 R2   | 0.5498  |        |         |        |         |         |   |
| 補正 R2    | 0.5492  |        |         |        |         |         |   |
| 標準誤差     | 0.7650  |        |         |        |         |         |   |
| 観測数      | 6486    |        |         |        |         |         |   |
|          | 係数      | 標準誤差   | t       | P-値    | 下限 95%  | 上限 95%  |   |
| 切片       | -0.1941 | 0.0504 | -3.8483 | 0.0001 | -0.2930 | -0.0952 |   |
| 健康状態     | 0.1595  | 0.0104 | 15.2847 | 0.0000 | 0.1391  | 0.1800  |   |
| やりがい・仕事  | 0.2003  | 0.0127 | 15.8264 | 0.0000 | 0.1755  | 0.2251  |   |
| 人間関係     | 0.1657  | 0.0131 | 12.6384 | 0.0000 | 0.1400  | 0.1913  |   |
| 資産水準     | 0.4326  | 0.0101 | 42.7130 | 0.0000 | 0.4128  | 0.4525  |   |
| 就労状況     | -0.1155 | 0.0201 | -5.7345 | 0.0000 | -0.1550 | -0.0760 | 就労している = 1, していない = 0                       |
| 家族構成     | 0.0810  | 0.0173 | 4.6951  | 0.0000 | 0.0472  | 0.1148  | 単身 = 1, 夫婦 = 2 (その他の家族は不問)                  |
| 生活費      | 0.0370  | 0.0090 | 4.0968  | 0.0000 | 0.0193  | 0.0547  | 年間生活費0円 = 1, 200-400万円 = 2, ・・・2000万円以上 = 8 |
| 資産運用状況   | 0.1397  | 0.0204 | 6.8606  | 0.0000 | 0.0998  | 0.1796  | 運用している = 1, していない = 0                       |
| 居住都市の推奨度 | 0.0284  | 0.0048 | 5.8989  | 0.0000 | 0.0189  | 0.0378  | 是非住むべき = 10・・・やめた方がよい = 0                   |

4つの満足度以外で係数の順に

資産運用状況 0.1397  
 就労状況 -0.1155  
 家族構成 0.0810

(出所) 「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

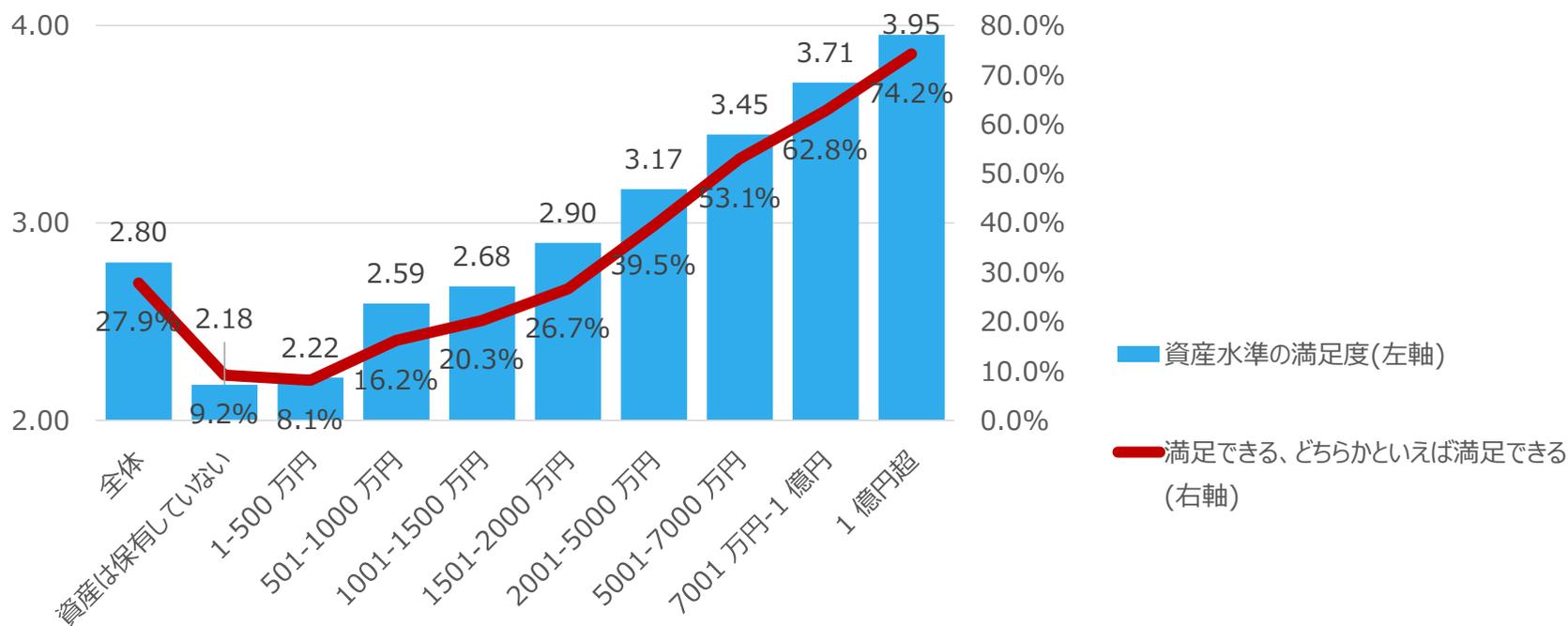
All rights reserved ©FinWell Research LLC, 2022

## 資産の満足度—多いほど満足度は高くなる

- 資産額が多くなるほど資産水準の満足度は高くなる。
- 「満足できる」、「どちらかといえば満足できる」と評価した人が50%を超える資産水準は5000万円超。評価点で3(どちらともいえない)を上回るのが2000万円超。

保有資産額別の資産水準満足度—第1弾レポートの再掲

(単位：点、%)

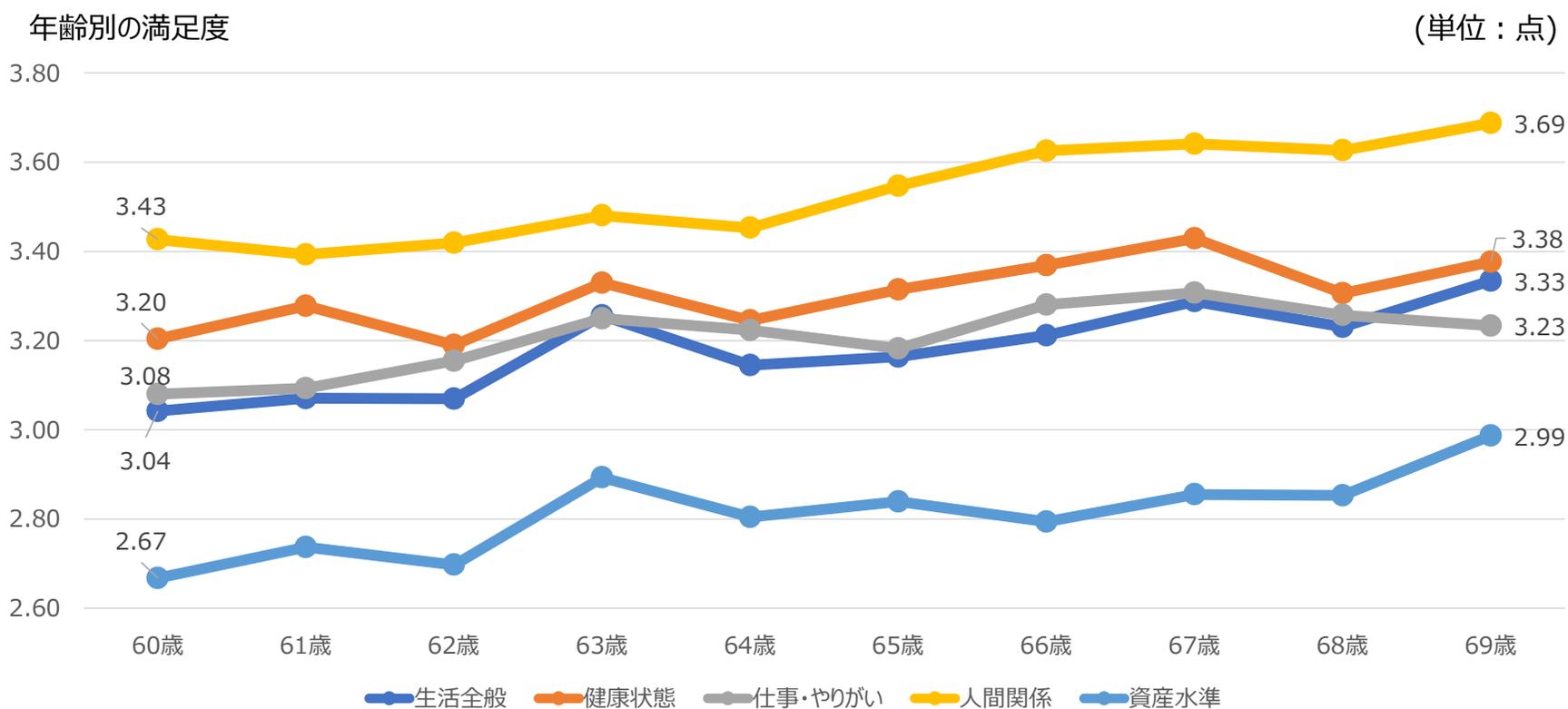


(注)資産水準の満足度は、5段階評価で、「満足できる」(5点)、「どちらかといえば満足できる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば満足できない」(2点)、「満足できない」(1点)の平均。比率(右軸)は、上位2つの合計比率。

(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

## 年齢別の満足度 – 60代は加齢に伴い僅かながら満足度が上がる

- 年齢が上がるにつれて満足度がわずかながら上昇する傾向にある。満足度の5つの種類別にみると、どの年齢でも人間関係の満足度が最も高く、資産水準の満足度が最も低いことがわかる。



(注) 満足度は、5段階評価で、「満足できる」(5点)、「どちらかといえば満足できる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば満足できない」(2点)、「満足できない」(1点)の平均。(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

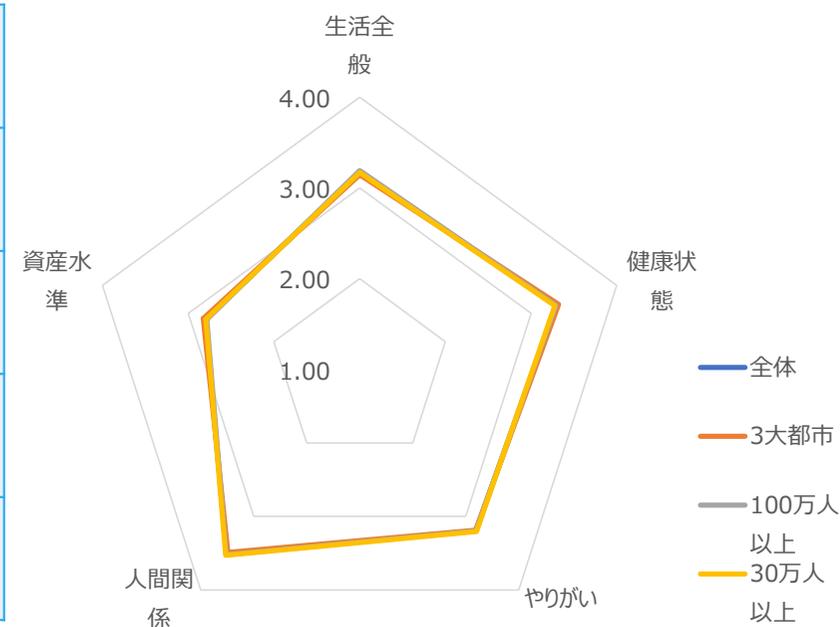
## 都市規模別の満足度 – 満足度は都市の規模にはほとんど関係しない

- 都市の規模で満足度を集計したが、3大都市、100万人以上都市、30万人以上都市ともにほとんど水準が変わらない。

居住する都市の規模別の満足度

|       | 満足度     | 回答者数 | 生活全般 | 健康状態 | 仕事・やりがい | 人間関係 | 資産水準 |
|-------|---------|------|------|------|---------|------|------|
|       | 全体      | 6486 | 3.17 | 3.30 | 3.20    | 3.51 | 2.80 |
| 都市の規模 | 3大都市    | 2131 | 3.14 | 3.32 | 3.19    | 3.49 | 2.82 |
|       | 100万人以上 | 2175 | 3.19 | 3.29 | 3.20    | 3.52 | 2.78 |
|       | 30万人以上  | 2180 | 3.17 | 3.28 | 3.21    | 3.53 | 2.80 |

(単位：人、点)



(注)3大都市は東京・大阪・名古屋、100万人以上都市は札幌、仙台、さいたま、横浜、京都、神戸、広島、福岡、30万人以上都市は秋田、宇都宮、前橋、千葉、新潟、富山、金沢、長野、岐阜、静岡、大津、奈良、和歌山、岡山、高松、松山、高知、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、那覇。満足度は、5段階評価で、「満足できる」(5点)、「どちらかといえば満足できる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば満足できない」(2点)、「満足できない」(1点)で平均。  
(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

## 家族構成別満足度 – 単身世帯の満足度が低い

- 単身世帯の満足度は、夫婦世帯に比べてどのカテゴリーでも低い傾向にある。
- 単身と夫婦のみを比較すると、生活全般の満足度に0.57点の大きな差異があるが、その要因は人間関係(差異0.47点)、資産水準(差異0.41)が大きい。

家族構成別の満足度

(単位：人、点)

|       | 回答者数 | 生活全般 | 健康状態 | 仕事・やりがい | 人間関係 | 資産水準 |
|-------|------|------|------|---------|------|------|
| 全体    | 6486 | 3.17 | 3.30 | 3.20    | 3.51 | 2.80 |
| 単身    | 1193 | 2.80 | 3.07 | 2.99    | 3.19 | 2.55 |
| 単身と子供 | 180  | 2.95 | 3.17 | 3.15    | 3.49 | 2.66 |
| 単身と親  | 250  | 2.92 | 3.12 | 2.96    | 3.35 | 2.69 |
| 夫婦のみ  | 2760 | 3.37 | 3.41 | 3.29    | 3.66 | 2.96 |
| 夫婦と子供 | 1583 | 3.19 | 3.34 | 3.25    | 3.54 | 2.80 |
| 夫婦と親  | 205  | 3.19 | 3.30 | 3.11    | 3.46 | 2.73 |
| その他   | 315  | 3.00 | 3.10 | 3.14    | 3.45 | 2.60 |

(注)満足度は、5段階評価で、「満足できる」(5点)、「どちらかといえば満足できる」(4点)、「どちらともいえない」(3点)、「どちらかといえば満足できない」(2点)、「満足できない」(1点)で平均。

(出所)「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2022年

# 重要事項

- 当該資料は信頼できる情報、データをもとに合同会社フィンウェル研究所が作成しておりますが、正確性・完全性に関して当社が保証するものではありません。
- 当該資料に記載された情報、意見は作成時点のものであり、その後の情勢の変化などによって予告なく変更することがあります。
- いずれの情報、データ、意見は将来の傾向などを保証もしくは示唆するものではありません。
- 当該資料に係る一切の権利は引用部分を除いて弊社に所属し、いかなる目的であれ当該資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断りします。

合同会社フィンウェル研究所